

## 令和4年度第2回四万十市産業振興計画フォローアップ委員会 議事概要

○日 時 : 令和5年3月27日(月) 14:00~16:25

○場 所 : 市役所本庁舎3階 防災対策室

○出席者 : 20名

○配付資料 : 会次第

【資料1】産業振興計画フォローアップ委員会資料

【資料2】産業振興計画アクションプラン進捗管理シート

【資料3】産業振興計画KPI一覧

### <結果概要>

#### 1 開会

#### 2 会議成立報告

欠席委員の紹介をし、委員25名中20名の出席があり、会議が成立していることを報告

#### 3 協議事項

##### (1) 四万十市産業振興計画の進捗管理について

##### 1) 四万十市の産業状況等について

事務局から資料1により、四万十市の人口動態や産業状況等について説明

### 《主な意見等》

#### (委員長)

産業状況等について、補足や実感などを少しご紹介いただければと思います。四万十市や地域でのデータから現状についてどういった状況なのか、先行く新しい情報などご紹介できるようにお願いしたいところです。

#### 【四万十市の企業の動きについて】

#### (A委員)

私どもが業務を行っている中で、最近では設備投資など、前向きな投資が増えてきていると感じています。

#### 【四万十市の求人状況について】

#### (B委員)

私が着任した令和3年度以降の求人状況は、この2年間で大きな変化は見受けられていませんが、求人の2割~3割は福祉分野・介護分野が継続して占めており、それらの分野の人手不足が続いているといった状況です。

また、今まではコロナの影響がある中でも雇用維持が図られていましたが、昨年度に比して、今年度は求職者の数が増加傾向であり、コロナが落ち着いてきている中求職者は増えてきている、と感じています。

要因については、十分な分析はまだ行えていませんが、現在の状況として皆様にお知らせいたします。

##### 2) 令和4年度の各産業分野の動きについて

事務局から資料1によりこれまでの取組み等について説明

《主な意見等》

・農業分野

【資材高騰及び集落営農法人について】

(C委員)

皆様ご承知かとは思いますが、現在、農業分野において大きな課題が2点あります。

1点は、四万十市でもこれまで多くの研修生を受け入れ、就農者の増加に取り組んでおりますが、現在ハウスの資材が非常に高騰しており、個人の方は補助事業を活用しても就農することが厳しい状況となっています。

これは県下全域の課題であり、就農を希望する方にとっては大きな問題となっていますので、現時点では中古ハウス等を探し、補助事業を活用しながらリノベーションし就農していく、といった支援を行っています。

それともう1点は、資料1の中で、就農人口がここ5年間で大きく減少しているといった数値が示されておりました。統計上の数値は確かに減少していますが、実際は極端に減少しているわけではありません。

ただ、四万十市で大きな動きがあるのは水稻で、高齢の方や兼業の農家が機械の買い替えや米価の低下等の要因により農業から撤退されてきておりますが、その代わり、集落営農法人等がかなり増えており、そこで農地が集約され農業生産が継続されるといった仕組み作りが進んでいます。

また、集落営農法人等により、現在100ha以上の農地が管理されておりますが、各法人が500万円や1,000万円の機械を導入することは、県や市の支援を受けても難しい状況ですので、色々な資材を大量購入し少しでも単価を下げる、また、農薬散布用のドローンを複数の法人が共同で購入し利用する等、法人間で連携する取組みを米だけでなく野菜や果樹等についても実施できるよう、関係機関と進めているところです。

【米の価格低下について】

(D委員)

農業の中心は水稻であると考えていますが、米の価格は20年間下がり続けており、消費者の皆様は安く購入できる一方で、農家としては厳しい状況でございます。

現在、米粉を利用したパン作りが家庭で多く行われているとの話も聞きますので、ぜひ市で米粉の開発等の取組みを進めていただければと思います。

【ぶしゅかんについて】

(E委員)

私も大好きなぶしゅかんに非常に力を入れて頂いており、嬉しい事ではありますが、ゆずとぶしゅかんの栽培面積と生産量を見ると、1ha当たりの生産量がゆずは10t、ぶしゅかんは3t程度となっています。

このことから、ぶしゅかんの単価がゆずの3倍以上であれば、経営として成り立つと考えられますが、ゆずと大きく変わらなければ経営は非常に厳しくなることが想定されます。実際の単価はいくらか、教えていただけますでしょうか。

(農林水産課長)

ぶしゅかんにしてもゆずにしても、単体の栽培では経営は成り立たないと思われれます。

先ほどD委員からもご発言があったように、四万十市では水稻が主で、中筋地域や東中筋

地域では、水稻単体で農業経営をされている農家もいらっしゃいますが、他の地域では、例えばそこに露地野菜と果樹の栽培、または水稻に加えて施設園芸と果樹の栽培というような、複合栽培でなければ農業のみでの経営が難しい状況です。

ご質問のあった単価については、ぶしゅかんが果汁で1kg当たり約130円、玉で約300円と聞いており、反当にしますと約20万円～30万円で、中々50万円に届かないというのが実情でございます。

ただ、ぶしゅかんについては戦略品目として位置付けており、単体で経営を成り立たせるというよりは、戦略品目として四万十市全体のイメージアップに繋げていく、また、耕作放棄地に植えていただくといった意味合いもございます。

また、一升瓶、約1.8Lの果汁の価格は、ぶしゅかんが3,000円、ゆずが2,000円となっており、ゆずと比べぶしゅかんが非常に高値で取引されているといった状況ではありませんが、近隣他市町村の他の果汁と比べると、ぶしゅかんの単価は比較的高いと聞いています。

(F委員)

今の話を聞いても、1ha当たりの生産量が3倍以上高いゆずと比べ、ぶしゅかんが良いと納得することはできないように思います。

(委員長)

私たちが納得するというより、農家にとってメリットがあるか、という点が重要だと思われます。

私も十分理解しきれていないところがありますが、ぶしゅかんについては複合経営が必要だが、ぶしゅかんにも存在価値は十分にあり、農家が取り組むメリットもあるという説明だったということで良いでしょうか。

(C委員)

少し補足させていただきます。

ゆずは栽培を始めてかなりの期間が経過しておりますが、収穫量が多い年と少ない年で別れる傾向があり、通常であれば10a当たり1.5t程度の収穫量ですが、多い年では2.5t程度、少ない年では1t未満となることがあります。

一方、ぶしゅかんについては植えてからあまり年数が経過しておらず、未だに幼木の状態で、成木になっていないことから、現在の収穫量は10a当たり300kg程度ですが、後3年～5年後は、2t前後収穫できるようになります。

後、管理の問題になりますが、ぶしゅかんはあまり管理が必要無いため、病気になりにくく、害虫も少ない、また、消毒も必要最小限でよい品目です。農家にとっては複合経営で9月頃に1反から2反栽培することにより、上手くいけば30万円から40万円ほどの収入が入ってくるという事になります。

ですので、ぶしゅかん単体で経営を行う場合は、ha単位の農地が必要となりますが、複合農家や高齢の農家の皆様にとっては、ぶしゅかんは栽培しやすく、経費も少ないという意味で良い品目であると考えられます。

(農林水産課長)

資料についてもう一つ補足させていただきますと、ぶしゅかんとゆずでは、1玉当たりのグラム数が異なります。

ぶしゅかんを果汁にした場合、歩留まりが約60～65%、良い絞り方ができれば70%程度となり、一方のゆずはもう少し歩留まりは良いと聞いています。

その差が、この資料の数値に出てきていると思われれます。

・林業分野

【林業における高知県の取組みについて】

(G委員)

高知県産業振興計画では、森林資源の循環ということで、皆伐した後に木を植える「再造林」に重点的に取り組む予定としております。

全ての山に木を植えるということではできませんが、木材生産や環境維持に特化して、効率よく再造林を進めていくために、今までは補助の対象になっていなかった部分についても、県単独での支援等を来年度実施するよう計画しているところです。

なお、幡多管内の木材生産量については、把握している範囲のみになりますが、約10万<sup>3</sup>m<sup>3</sup>となっています。今後、県においてもさらに木材生産量を伸ばしたいと考えており、その目標値も増加する見込みです。四万十市でも、中村森林組合や西土佐森林組合の協力も得ながら、四万十市の木材を有効に活用することが重要となります。

また、森林経営管理制度については、市町村で意向調査や森林整備を行っておりますが、昨年度立ち上げた幡多地域森づくり推進センターと、県、市町村、森林組合等が連携しながら計画的な森林整備を進めたいと考えています。

特に四万十市では、木材を生産するための高性能林業機械へのかさ上げ補助であるとか、そういった事も計画していただいておりますので、県林業事務所としても協力していきたいと思っております。

最後に私事ですが、今回の異動で、林業大学校で人材育成を行うこととなりましたので、四万十市の事業体や森林組合が若い人材を雇用できるよう励んでいきたいと考えております。人口が減っていくなかで、若い人材の育成は難しい部分もありますが、事業体に入って技術を磨いて、林業を続けていただければと思っておりますので、皆様引き続きご協力をお願いします。

【林業就業者数について】

(委員長)

新規林業就業者数について、年間目標値の5名に今年度は初めて到達していますが、何か実感されている変化や、把握したニーズ等は何かありますか。

(事務局)

詳細な分析はできておりませんが、緑の雇用事業などの就業支援の取組みにより、新規就業希望者を雇用し易い環境が構築できていることが要因として考えられます。

・水産業分野

【あゆ王国高知振興ビジョン及びアオサノリについて】

(H委員)

先ほどご紹介いただいたとおり、県では「あゆ王国高知振興ビジョン」の推進のため、情報発信分野や鮎資源を守る分野、その他にも食や加工、観光に結び付ける分野など、様々な取組みが検討されているところです。

また、現在、四万十川西部漁業協同組合で実施して頂いている河床の改善に向けた取組みについては、資源の増強、さらには、観光に結び付けられるような鮎が獲れるということにも繋がってくると考えております。

その他にも、先ほど説明していただいたとおり、四万十市や地元の方々と連携した取組みも実施しており、例えば、最近新聞報道にもあったように、スジアオノリやアオサノリが中々獲れないような状況となっていますが、私ども土佐清水漁業指導所と四万十川下流漁業協同組合と一緒に、室内での培養に向けて取組みを進めています。

アオサノリについては、4月から10月くらいまでは漁協の施設で培養しておりますが、漁業指導所側で光環境についての調査等を実施し、種付けの経過・状態を確認させていただいております。

今後も引き続き、四万十川の上流から下流にかけての資源の生産量を維持、増大に向けた取組みを皆様と連携しながら進めて参りたいと考えておりますので、引き続きご意見やご協力をお願いします。

#### 【鮎の有効活用等について】

##### (I 委員)

鮎については昨年、一昨年と豊漁が続いており、今年についても遡上調査の結果では何十万匹もの遡上が確認されましたので、今年も鮎の漁獲量については期待できるのではないかと考えています。

一方で、昨年は小さめの鮎が多く、また、一時期1kg当たり500円となる等、単価が極端に低くなっており、漁師の収入に大きく影響しておりますので、解決のためには販路拡大が必要であり、鮎の有効活用施策としても大きな課題の一つであると認識しています。

また、スジアオノリとアオサノリについては昨年、今年と全く収穫が出来ない状態となっており、解決に向け様々な調査を行っていますが、これといった解決策は今のところありません。

今まで何度か会議で発言している「観光面における四万十川の有効活用」については、県の「あゆ王国高知振興ビジョン推進協議会」内でも協議しており、また、現在四万十市で「四万十川かわまちづくり計画」の策定に向け協議が進められておりますので、その計画の策定と推進により観光誘客が図られることを期待しています。

鮎の漁業体験については、現在四万十川中央漁業協同組合が中心となり四万十市で実施していますが、来年は三原村より、中筋川ダムの事務所を通じて実施したいとの提案をいただいておりますので、協力しながらこの取組みを広めていきたいと考えています。

##### (委員長)

資料では小学生のしゃくり漁体験とありますが、小学生でも可能なのでしょうか。

##### (I 委員)

小学校4年生以上はしゃくり漁体験、小学校3年生以下や幼稚園児はつかみどり体験となっていますが、皆さん上手に捕まえています。

#### 【川の環境保全について】

##### (J 委員)

昨年度から川の状態を調査しており、非常に状態が悪いことが判明しています。

市の農林水産課にもご尽力いただき、県や国等にも四万十川の現状を訴えています。多くの産業の代表者が集まるこのような会に、県や国の担当部署の方にもご出席いただくことが重要ではないかと思っています。

四万十市の中でも、四万十川は最も重要な財産であり、有効活用するためには、四万十川の環境を守ることを最初に取り組む必要があります。最も重要なプロジェクトでもあると考えて

います。

アオサノリについて先日新聞報道がされていましたが、上流から下流に汚れが流れ、アオサノリに栄養が行き届かないため、収穫できない状態が続いています。

先日、市の農林水産課や県にもご協力いただき、広見川や四万十川、目黒川の調査を2年間実施していただきました。 13755

調査の結果、広見川は非常に状態が悪く、鮎が遡上できる状態ではないことが判明しました。解決のためには、愛媛県側から川を治す取組みを行っていただかないと、四万十川の入口である広見川では鮎が育たないのではないかと私は考えています。

「あゆ王国高知振興ビジョン」が策定され、鮎の販売等にも力を入れるようになってきていますが、このままでは5年先、10年先にはもっと川の状態が悪くなると思われますので、今まで何度も話をしているように、もう少し皆様が真剣にこの問題を捉えていただくことが大事であると考えています。

ぜひご協力をお願いします。

(委員長)

問題提起ありがとうございます。川の調査結果が出て、関係機関の皆様が取り組む状況が出来つつありますので、今後の取組みにも期待したいと思います。

#### 【鮎に関する情報発信等について】

(委員長)

1年間、「あゆ王国高知振興ビジョン」に関わらせていただいたところ、情報戦については、人々が鮎の情報を得て動き出す時期はどちらかと言えば春先から夏くらいまでが多いのですが、行政が取組みを進める場合は、もう少し後の時期が中心となってくることが多いと感じたため、行政が取り組む際のタイミングをもう少し鮎に合わせられるかどうか、が1つの課題であると考えられます。

今回作成した「あゆ王国高知」のホームページが完成した時期が1月から2月となり、昨年度はホームページを作るので精一杯だった、というのが実情です。

あと、岐阜県に視察に行かせていただきましたが、個人的な印象としては、鮎に関する新しいプレイヤーが出てきていることを感じました。

例えば、岐阜県には「あゆパーク」という鮎に関する体験や教育旅行ができるよう整備された施設がありますが、そこでは冬にスキー場のガイドを行っている方が夏に鮎のガイドを行っています。

ガイドの方は、いわゆる「翻訳家のプロ」ですので、初めての事でも少しでも楽しめるように様々な工夫がされており、例えば、鮎の串打ちは簡単ではないと思いますが、鮎の型抜きをされたものに鮎を入れ、串を打つと串打ちが簡単にできるといったものや、塩焼きについてもドラム缶に立てればしっかりとできるといった工夫がされています。

新しいプレイヤーと、今まで鮎に取り組んできた方々とのタグで情報発信や体験の場が作られていると実感し、私たちの今後の取組みへの大きなヒントでもあるのではないかと感じたところです。

#### ・商工業分野

##### 【市内の商工業分野の事業者の現状】

(副委員長)

コロナ禍において特に商業は影響を受けた分野となっておりますが、5月からインフルエンザと同じ5類に見直され、また、今後コロナが終息に近づくことにより商業が活性化されればと願っているところです。

現在、観光客を含めた、街中における飲食店等の夜間営業店舗の利用状況について、一次会で利用される飲食関係は概ね良好で、賑わいが戻りつつある状況ですが、それ以降の二次会、三次会の会場は、まだまだ厳しい状態が続いているという話をよく耳にします。

また、先ほど事務局から説明いただいた、四万十市独自の中小企業振興資金の利子・保証料補給は市内の多くの事業者が利用させていただき、事業継続に繋がったということで多くの感謝の声も聞いています。

このように、商業については、市独自の支援もあり多くの事業者が継続している一方で今も厳しい状態が続いておりますが、工業のうち土木業については国の施策である国土強靱化の5ヵ年加速化対策もあり、仕事量については確保できています。

ただ、若い就業者が少ない状況が続いており、今後の担い手確保に苦慮している状態が続いています。

### 【商店街の現状等について】

#### (F委員)

マルナカが昨年の12月末で商店街から撤退しました。事前に把握できていればもう少し余裕がありましたが、私たちに知らされたのは10月頃でしたので、急遽多くの方と協議を行いました。特に策は打てず進展のないまま現在の状況が続いています。

資料に掲載されている商店街通行者数はマルナカが営業している時の調査結果ですが、現在、商店街を歩いている方は極端に減少しており、もし今から調査を行ったら、もっと悪い結果となるのではないかと思います。

コロナ禍の影響で街中のイベントもほとんど中止となり、若干感染者数が収まっていた中開催を予定していた「よさこい四万十」も台風の影響で中止となりました。

昨年度まともに開催できたイベントは、四万十市商店街振興組合連合会女性部の皆様で実施していただいた街中のイベントのみ、という残念な結果となっております。

少しずつコロナも落ち着いてきていると感じていますので、来年度はイベントも復活しもう少し街中に人が来ていただけるのではないかと期待をしておりますが、コロナ禍の影響もありまだまだ商店街には人が戻ってきていないというのが現状です。

#### (K委員)

先ほど紹介があったとおり、本当に街中を歩く人が少なくなっています。

私たちは5つの商店街の女性部で「四万十玉姫の会」を発足し、多くの方が街中を回っていただくため、昨年の10月に皆様にご協力いただきながらスタンプラリーのイベントを実施したところ、その時は30代や40代の家族連れなど多くの若い方の参加があり、四万十市にも若い方はたくさんいることを実感できました。

色々な方にとにかく街中を回って見てもらいたい、どんな店舗があるか知ってもらいたいと考えており、マルナカが撤退した今でも、商店街を回れば色々な物が揃う事を分かってもらえるよう、日々勉強しながら取り組んでいるところです。

また、この会に出席するたび、それぞれの分野で活躍されている皆様と協議するだけではなく、繋がって一緒に取り組み出来ることはないかと考えています。

農産物や水産物を商店街で販売したり、その他にも各分野と商店街と連携してできること

があればと思っていますので、皆様今後ともご協力をお願いします。

(委員長)

本日の会の終了後でもかまいませんので、皆様ぜひ他分野や商店街との連携について考え、話し合っただけであればと思います。

また、令和6年度には文化複合施設も完成しますので、商店街とは少し離れていますが、文化複合施設と連携し四万十の中心商店街に人を呼び込み、まちなかが賑わうような取組みも進められると良いと感じています。

#### 【商談会等について】

(L委員)

我々も高知県産業振興計画における地域アクションプランの進捗状況の管理やフォローアップを行っておりますが、去年と今年を比較すると、商談会が再開してきています。

商談会は実際に大きな会場で行われるものと、オンラインで行われるものがありますが、商談の機会が増えた結果、以前行っていた取引が復活したり、新しい取引が増えたなど、地域アクションプランの事業者に限った話ではありますが、昨年度同期と比較して、今年度は少しではありますが売上が伸びてきています。

今後コロナが第5類となるということもあり、ますます人の動きが活発になると予想されますので、事業者の皆様が商談会や商業活動にこれまで以上に取り組んでいくかと思っています。我々としてもこうした取組みをしっかりと支援していきたいと考えています。

また、観光地や商店街について、今後は、海外の方の訪問が増えてくると思います。コロナ禍の影響で対応が止まっていた部分もあろうかと思いますが、そういった方々への対応などの取組みについても支援していきたいと考えています。

#### 【西土佐商工会に配置される地域おこし協力隊】

(M委員)

来年度、西土佐商工会に配置される地域おこし協力隊の予算を四万十市に計上していただきました。

地域おこし協力隊とは、山間地域等において地域活性化に係る取組みを行っていただくもので、昨年は鮎釣り大会や米ナス等に係る業務を実施していただき、鮎釣り大会については県内外含め30名弱の参加があった他、スポンサーにもご協力いただけたため、良いPRの機会となったのではないかと考えております。

今年度は、鮎釣り大会も継続して実施するとともに、SNSを活用したプロモーションに力を入れて実施してもらおう予定です。

「あゆ王国高知振興ビジョン」も策定されていますので、県や市、地域の皆様にご協力いただきながら、西土佐商工会としても全面的に取り組んでいきたいと考えています。

(委員長)

地域おこし協力隊の方は人生をかけて四万十市に来られますので、ぜひ四万十市に定住していただけるような環境づくりを皆様とともに行っていただければと思います。

・観光業

#### 【インバウンドの取組み等について】

(N委員)

四万十クーポン等の支援があったこともあり、今年度の市内宿泊者数は令和元年度よりも



多くなる見込みです。

要因としては、四万十クーポンの他、コロナ禍が落ち着きつつあり、今まで我慢していた観光のニーズが高まったことが大きいと考えておりますが、これが今後も続くかと言えばそうではありませんので、今後の人を呼び込む取組みが非常に重要となります。

来年度は、四万十クーポンが引き続き実施される他、ドラマ「らんまん」の放映による効果が期待され、牧野植物園は全国的にファンが多いことから本市にも観光客が訪れる見込みですが、相対的には厳しい状況となると予想しています。

一方で、インバウンドは現在急速に回復しており、先日台湾に商談に行ったところ、高知県西部についての情報が欲しいと言われていた他、バンコク等からも話をいただいているので、今後期待できるのではないかと考えています。

また、現在「高付加価値インバウンド」に取り組んでおり、現在県や市と連携しながら国の補助金申請を行っているところですが、今までの見て回る観光ではなく「体験する観光」であったり、体験するだけではなく「地域の成り立ちを知る観光」という、より深掘した観光商品を作りたいと考えています。

漁業体験や鮎の体験を通じて、地域の方々の暮らし方を知ることができたり、550年前に整備された街並みや、一条家の文化がいかに地域に根付いているかを学ぶことができる観光商品を造成することについて、今回四万十市と同じ意識で取り組んでいることは大きいと考えており、もし補助金申請が落選した場合であっても、観光協会が取り組むべき事業として進めていきたいと考えています。

#### 【「川を守っていく」ための取組み等について】

(O委員)

私は市内でカヌーとSUPの体験を行っており、夏は観光業、冬は小規模林業を行っています。

観光だけでなく全体に係ることとなりますが、四万十市は「川とともに生きるまち」としてメッセージを発信していますので、ぜひ産業振興計画の中に「川を守っていく」「川を良くしていく」といった内容を盛り込んで欲しいと思います。

色々な人から「川がいかなくなった」という声をよく聞きますし、今年の佐田沈下橋付近では水位が低下して観光客からも「佐田は残念スポット。三里の方が良かった。」と言われました。

このような問題に対して、個人ではどうしても対応が難しい部分があるので、市レベルでも難しいかもしれませんが、四万十市は森と海と川が全部繋がっていますので、分野の中に「四万十川」という分野を入れても良いくらい、重要視すべき部分ではないかと思えます。

(J委員)

先ほどの意見に感銘を受けました。私は、皆様で連携して取り組むことが非常に重要であると考えていますので、この中でどなたかにリーダーになっていただいて、毎月、小規模でも良いので会を開いて意見交換を行い、今後の活動に繋げることができるような組織を作りたいと思います。

別の話ではありますが、副委員長が私を含め15人ほどを色々な店に連れていき、様々な食事を楽しんだ後また別の店に連れていくといった事を定期的に行っていただいております、毎回店を変えて行う事で地域の活性化に繋がってくれています。

そのような取組みが連携であると考えられ、例えばそれぞれの沈下橋に異なる花をたくさ

ん植えることで、それぞれの沈下橋でより異なる風景を楽しめるようになり、宿泊業や飲食業などにもつながってくると思います。

ここにいる皆様と連携しながら、四万十市で最も重要な「四万十川」を良くするための取組みを進めたいと思いますので、ご協力をお願いします。

(事務局)

貴重なご提言ありがとうございます。

ご意見のとおり、四万十川の環境保全は産業だけではなく、環境面、そして生活様式の一部でもあり多岐に渡ることとなります。

本日の会は産業振興計画フォローアップ委員会ということで、産業部門に特化しておりますが、本市では四万十市総合計画を策定しており、まもなく改定の時期となります。

その中で、市として、四万十川との関わり方や、どのように対応していくのかという点について整理をさせていただきたいと考えております。

(委員長)

産業振興という分野では、生活上のことや環境保全に関する観点では記載が難しい部分があるかと思いますが、四万十川の魅力をより感じることができるプロジェクトをアクションプランに盛り込むことにより、進捗管理をしながら産業振興計画でも貢献できる部分はあるのではないかと思います。

また、連携については連携の場づくりから、四万十市とここにいる皆様が取り組んでいただく事が重要だと考えられますので、これから連携に向けて進んでいければ良いと思います。

#### 4 その他

- ・事務局より次回の開催予定の案内
- ・事務局より令和5年4月1日付人事異動のあった4名の委員の紹介

#### 5 閉会

(副委員長)

皆様から様々なご意見や、各分野の現状報告をいただきありがとうございます。

四万十川を中心に、各分野の皆様が連携をしていくことは非常に重要なことだと思っています。資料にも連携分野の取組みが多く記載されておりますが、次世代にも連携の取組みが繋がるよう、ここにいる皆様もぜひ連携を深めながら、次回の会でお会いした時には少しでも前に進めるような状況を作っていければと考えておりますので、今後とも皆様にはご協力いただきたいと思います。本日はありがとうございました。